

地域における男女共同参画推進活動報告書



平等・開発・平和

ともだち共立

第31号 富山県男女共同参画推進員高岡連絡会

「地域の男女共同参画」の実現をめざして

富山県男女共同参画推進員高岡連絡会
会長 森岡 真人

令和6年度富山県男女共同参画推進員の高岡連絡会会長を務めております森岡です。

私が推進員として活動を始めて5年になりますが、特に重要だと感じたのは、「地域における男女共同参画」です。「地域における男女共同参画」は、社会全体の持続可能な発展に欠かせない要素だと思っています。男女が平等にあらゆる組織、団体又は会合等に参加し意見を反映させることで、多様な視点が集まり、地域の課題解決や活動に向けて創造的なアイデアや取り組みが生まれやすくなります。特に地域においては住民の生活に密接にかかわる問題が多く存在しますが、これらの問題に対処するためには男女問わず多様な視点、経験を生かすことが重要です。

男女共同参画の推進は、地域の活性化にも寄与します。地域の女性が活躍することで、経済的な側面だけではなく、地域の文化やコミュニティの強化にもつながります。例えば、女性が地域のリーダーシップを担うことで、地域のイベントや活動が多様化し、より多くの人々が参加しやすくなります。

さらに男女共同参画は次世代の育成にもとても重要な役割を果たすと考えています。家庭や学校、地域の中で男女が平等に活躍する姿を見て育つことで、子どもたちは性別に関係なく自分の夢を追い求めることができるのではないのでしょうか。

私は次世代のためにも「地域における男女共同参画」は重要だと考えています。しかし、高岡市における自治会長の女性比率2.3% (R5)、高岡市立学校のPTA会長の女性比率5.6% (R5)、残念ながらまだまだ「地域における男女共同参画」は遠いように感じています。

私たちは日々、地域で生活そして活動をしています。その地域において男女共同参画が進んでいないのはとてももったいないように思っています。私たち推進員も出来る限り男女共同参画の啓発活動や推進活動を行ってまいります。男女共同参画を進めるためには、一人ひとりの意識改革が不可欠です。「男だから…」 「女だから…」 という思い込みを今一度見直していただき「地域における男女共同参画」にご理解とご協力をいただければ幸いです。

この広報紙は高岡市のホームページからご覧いただけます。

富山県男女共同参画推進員高岡連絡会

検索



HP



三 二 地 区 懇 談 会

9月16日(月)
野村・牧野地区

講演会「地域防災講座」

・防災は日頃の備えから ・男女共同参画の視点による避難所運営

講師 NPO 法人富山県防災士会 中村 晴美さん(防災士)

地域における防災活動への対応が課題となっていることから、防災士の中村晴美さんをお招きし講座を行いました。

能登半島地震を経験した際に「対応できなかったこと」「予想していなかったこと」が多く発生しており「事前の準備が足りていなかった」と多くの参加者から声がありました。

講座では、段ボールや100円ショップで購入できるものを使用し、簡易トイレの作成を体験しました。その他に「災害用伝言ダイヤルの使い方」を学び、伝言ダイヤルを練習できる機会があることを知り、家族、友達で利用してみる必要性を感じました。

併せて地域防災のリーダーの中には「女性役員をおくこと」「炊き出し等は婦人会などの女性が行うこと」などと決めつけないことが良いとあり、男女共同参画の視点からの学びも得ることができました。

災害に強い地域づくりには性別や立場に関わらず、多様な人材が集まり、様々な課題に対応していくことが大切であると学ぶ機会となりました。

(金刺 由香里)



9月20日(金)
伏木・古府・太田地区

講演会「防災に於ける男女共同参画に学ぶ」

講師 NPO 法人Nプロジェクトひと・みち・まち 須賀 泉美さん(防災士)
佐野 君子さん(防災士)

令和6年1月1日に起きた能登半島地震で、この伏木・古府・太田校区においても甚大な被害を受けました。その経験をしてきたなかで、これから更に必要であると考えられる男女共同での地域防災について各自治会、地域の人を対象に講演をしていただきました。

実際に被災した過去の例を基に、起こり得る避難所でのトイレや着替えなど男女間のプライバシー、ストレスで泣く子どもや高齢者への配慮などを知り、それらの問題を解決していくには男女さまざまな年代のリーダー、男女でいろいろな役割を担えるように常に備えるということ、そして、避難訓練において女性や子ども、高齢者の方々も積極的に参加し、実際に起こり得ることを想定した備えを地域レベルで向上していくことの大切さを感じました。

災害はいつ起こるかかわからないなかで、地域みんなの力を効果的に活かし、みんなで助かる地域、みんなで元気を与え合って老若男女共同参画で復興していける地域を目指す必要性を学ぶ良い機会となりました。

(一川 卓巳)



10月30日(水)

戸出西部・戸出東部・中田地区

講演会「ジェンダー平等の達成に向けて ～困難を抱える女性と子どもの支援現場から見えるもの～」

講師 女性クリニック We! TOYAMA 代表・産婦人科医 / 富山県議会議員
種部 恭子さん

産婦人科医として女性の声を聞き続けている種部さんが、現場で感じていることや、政治の道へ進んで、女性を取り巻く社会環境に何を感じるのかを、多くのデータや資料をもとにお話していただきました。

種部さんが強調されたのは、虐待など様々な理由で居場所のない10代の子どもたちが、SNSで「助けて」とつぶやいていること、そのSOSを男性が悪用し、子どもの弱い立場を利用して性被害につながっているという現実です。このようなことが女性の産後の孤立につながり、命を絶つ場合もあります。これが政治の道を選ぶきっかけにもなったそうです。

日本は、他国と比べて男女格差が大きいといわれています。男女の格差が大きいということは、社会の損失につながることも多いです。幸福度の高い社会の実現のために、今女性が置かれている立場を理解して、改善を考えなければならないということを学びました。

(竹田 桂子)



高岡七夕まつり マイ七夕作成

日時 7月28日(日)

場所 御旅屋アーケード内

参加者 18名

(うち お子さんやご家族が7名参加)

マイ七夕参加目的 男女平等・共同参画の市民への啓発と高岡連絡会の活動の周知のため

7月に、男女平等・共同参画の活動の啓発を目的として、高岡七夕まつりのマイ七夕づくりに参加しました。

汗が流れ落ちるような暑い日でしたが、推進員の子どもたちも来てくれたので、子どもたちにも短冊に願い事を書いてもらいました。初めのうちは何を書こうかと悩みながらでしたが、次第に次から次へと筆を走らせていました。

願い事を短冊に書くように、すべての人が平等に、希望したことを叶えるために努力できる社会であってほしいと思いました。

(竹下 衣利)



第1回定例会（男女共同参画週間）

6月29日

6月の男女共同参画週間にあわせ、高岡駅南北自由通路にて、同週間を周知する街頭啓発活動に初めて取り組みました。土曜の日中ということもあり、多くの皆さんに啓発グッズをお渡しすることができました。性別や年齢を問わず、男女共同参画の理念に理解を深めていただく契機となることを願っています。

（田中 信幸）

6/23~29は 男女共同参画週間

内閣府では、「男女ともに自らの個性と能力を最大限に発揮できる社会を実現していくためのキャッチフレーズ」を募集し、『だれがだれも選べる社会』に今年度のキャッチフレーズに決定しました。

男女共同参画週間は、男女共同参画社会基本法（平成11年6月23日公布・施行）の目的や基本理念について理解を深めるために設けられた週間で、この間、全国で男女共同参画を推進するための様々な取り組みが行われます。

高岡市（男女平等推進センター）の取組

男女平等推進センター（ウィング・ウィング高岡6階）では、男女共同参画週間にあわせ、6月1日（土）～6月30日（日）の期間に、特別設営コーナー、パネル展示、企画講座を行っています。

特別設営コーナー

高岡市中央図書館（ウィング・ウィング高岡6階）に、男女共同参画に関する図書を紹介する特別コーナーを設置しています。

パネル展示

男女平等推進センター（ウィング・ウィング高岡6階）に、パネル展示と設営コーナーを設置しています。多様性（ダイバーシティ）、性別による意識の違い、防災における男女の異なる立場やニーズが掲載されています。

企画講座

男女共同参画社会の実現に向けて、クロスロード・ダイバーシティゲームを通して、自分の今の思いに気づこう

オフィス・シェア代表 米村 実樹子さん
 (クロスロード・ダイバーシティゲームのコーディネーター)
 日時：6月29日（土）13:30～15:30
 場所：高岡市男女平等推進センター1号講堂（ウィング・ウィング高岡6階）

富山県男女共同参画推進員高岡連絡会は、地域における男女共同参画の普及・啓発活動を推進するため、情報から依頼を受け、積極的な活動を行っています。

高岡連絡会は、市内各市区での講座の開催や広聴部「ともだち・共立」の発行等の活動を行っています。

高岡連絡会 QRコード

作成：富山県男女共同参画推進員高岡連絡会 TEL:0766-20-1812（高岡市男女平等・共同参画課）

9月14日

自主研修会（地域防災）

「男女共同参画の視点から考える地域防災」 ～防災カードを使って、安全・安心な避難生活について考えよう～

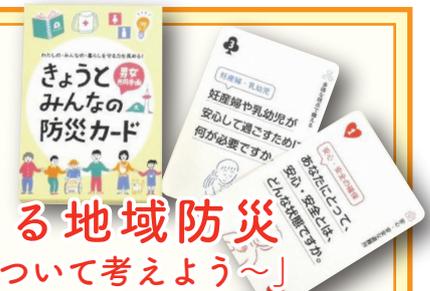
講師：NPO 法人 Nプロジェクトひと・みち・まち 理事長 大坪久美子さん

令和6年元日に発生した能登半島地震は、市内全域に避難所が開設される初めての大規模災害となりました。市民の多くが災害による避難をした経験がなく、短期間とはいえ避難所生活に戸惑ったことと思います。

国内では大規模災害の度に避難所の課題が指摘され、その一つに「男女共同参画の視点での避難所運営」がありますが、実現できていないのが現状です。そこで、男女共同参画による地域防災力の必要性の説明と、防災カードを使って安全・安心な避難生活を考える研修会を開催しました。

防災カードは男女共同参画や多様な視点から、災害時に発生する困り事について考える教材で、カードに書かれている「問い」について話し合います。講師の指導のもと、4つのグループに分かれて議論が交わされましたが、実際に災害を経験したこともあり、熱のこもった大変意義のある議論となりました。難しい専門的な意見を言う必要はなく、それぞれの立場で思ったことを話し合うことで、課題解決の糸口が見えてきます。災害に対する備えとして、自治会や地域行事などでカードを活用した取り組みを実施してみたいかがでしょうか。

（田中 信幸）



編集後記

「ともだち・共立」の編集に初めて参加させていただくことによって、市内の仲間たちが男女共同参画推進員の活動を通して、何を伝えているか、どのように行動しているかを一層深く知ることができ、次の課題も見つけられました。皆さまの日頃の取り組み、懇談会や研修会に参加して下さった市民の皆さまのお陰で無事発行できたことに感謝申し上げます。（灘岡 彩香）

広報部会

- 副会長 灘岡 彩香
- 部長 田中 信幸
- 金刺 由香里 竹下 衣利
- 門前 善英 竹田 桂子
- 吉川 奈美 山本 郁子
- 一川 卓巳 山田 真央